

愛ことば

～安倉中 愛～

宝塚市立安倉中学校
校長だより
2024(令和6)年
12月4日(水)
第18号

朝の校門が選挙運動で
活気にあふれています。

安倉中愛 いじめ撲滅宣言2 ぼくめつ せんげん ～全校集会で伝えたかったこと～

前号に続いての発行となります。前号では、安倉中でのいじめ発見の感度を高めていく取組について紹介させていただきました。今号はもう少し深く掘り下げていきます。

国立教育政策研究所では、いじめを大きく二つに分けています。一つは「ひどくぶつかる・叩く・蹴る」などの「暴力を伴ういじめ」と、もう一つは「仲間はずれ・無視・にらみ・陰口・からかい・悪口」などの「暴力を伴わないいじめ」です。そして、それぞれを区別した取組を提案しています。

この研究所の調査では、「暴力を伴わないいじめ」の場合、小学校4年生から中学校3年生までの6年間で91%の生徒が「被害の経験がある。」と答え、85%の生徒が「加害の経験がある。」と答えています。この数字は、小学校4年生から中学校3年生までの6年間に毎年2回ずつのアンケートを行い、1回でも被害や加害の経験があると答えた生徒の割合です。この結果から、いじめられた生徒といじめた生徒は重なっているということが読み取れます。

よって、生徒の皆さんが多くの時間を共に過ごす学校という場において、「心身の苦痛を感じる行為(いじめ)」は十分起きうるものであるという認識が大切と考えます。

そして、生徒が被害を受けることは当然心配ですが、加害を与えてしまうことも同様に心配であり、どちらの立場に対しても学校として適切な対応を行い、また保護者の皆さまにもその都度連絡を行っていき、少しでも早い解決に向けて早期対応の取組を進めたいと考えています。

しかし、このことは、**決していじめはよくあることなので、起こるのも仕方がないという意味ではありません。**安倉中では、このような「暴力を伴わないいじめ」をもゼロにしていくためには何をすべきなのかを考え取り組みます。そのための方法は、いじめは生徒全体に関係するという視点から、一部の限られた生徒だけでなく全ての生徒に目を向けて取り組むことが必要であり、それは、日頃から、**予防に努めること**であると考えています。いじめは絶対に許さない、お互いに相手を尊重し思いやる空気づくりから、いじめの小さな芽も生まない雰囲気を守っていきたいと考えています。これこそが**安倉中愛の取組**です。

次に、「暴力を伴ういじめ」については、被害や加害の経験は、グンと少なくなってきましたので、学校としてはしっかりと生徒の皆さんと関わりながらその様子や変化に目を配り、**早期発見に努める**という取組が大切であると考えています。何気ないじゃれ合いやいたずらが、エスカレートして被害を訴える人がないように気配りや目配りする方やそれに気づく人を育てていくことが大切であると考えています。

また、いじめをなくす取組で重要なことは、その周りの人たちの存在です。いじめの存在を知りながら、**遠目からでも笑ったり、はやしたてるとか、見ていだけの人もいじめを育てていること**になります。

普段の生活の中では、「これは明らかにいじめだ」ということは少ないかもしれませんが、むしろ「あれっ何かおかしいぞ?」「ちょっと違うのでは?」という違和感いわかんを持つことはあると思います。ちょっとした冗談じょうだんやじゃれ合いのつもりだったかもしれませんが、それを受けている人にとっては、とても辛いということによくあります。もしも、そんな時にあなたがまわりの人だったら、是非、行き過ぎている人に「それはあかんやろ。」と気づかせたり、「やめとけ。」の一声をかけたり、しんどそうな人には「大丈夫か?」と寄り添よってあげたりしてください。もしも、そこまでのことが無理なら、先生や保護者などまわりの大人に伝えてください。安倉中では、話を聞いたその後は、相談してくれた人や辛い思いをしている人としっかりと確認しながら、その後の動きを決めて進めていきます。

また、もしも自分が相手に嫌いやな思いをさせている人(人をいじめてしまった人)がいたらそのことをしっかりと受けとめ、**すぐに改める素直さ・正直さを発揮してください。ダメなところをしっかりと見つめて、できることを誠意をもって行える勇気を持つことです。失敗は誰にだってありうることです。**

全校で取り組んでいる「安倉中愛」は、まさにいじめをなくしていくという取組かごんのためにあると言っても過言ではありません。それくらい全校生と全教職員で大切に守っていくものだと思っています。生徒会執行部でも丁寧に取組を進めてくれています。

普段から一人でもいじめで悲しい思いをする人がない安倉中にしていくために全校生の皆さんこれからも是非協力してください。

